



QUALITY FOR LIFE

## Press Release

1/2

January 24, 2011

### 社会的役割を担うプロフェッショナルスポーツ

ベルリンのサイエンスセンター メディカルテクノロジー にて、2012 年にロンドンで開催されるパラリンピック競技大会の記者会見が開催されました。この会見では、経験豊かな義肢装具士の熱意ある関わりがパラリンピックにとっていかに重要であるかということに焦点をあてられました。ロンドンでの開会式まで 553 日となるこの日、イギリスおよびドイツのジャーナリストに向け、LOCOG(ロンドンオリンピック・パラリンピック組織委員会)、国際パラリンピック委員会(IPC)、そして修理サービスを担当するオットーボック・ヘルスケア社が共同し、その目的を説明いたしました。

オットーボック社は 1988 年のソウルパラリンピック競技大会から積み重ねられたパラリンピックに関するノウハウを信頼され、LOCOG より「オフィシャル・サービスプロバイダー」に任命されました。IPC の委員長であるフィリップ・クレバン卿はこの決定を歓迎し、次のように語りました。「オットーボック社にいて、まるで我が家にいるようです。オットーボック社のスピリットとパラリンピックの活動はぴったり合っています。ロンドンでは、オットーボック社のほかには英国の大手スーパーマーケットチェーンのセインズベリー社がパラリンピックのみのスポンサーとして参加します。」フィリップ・クレバン卿によるとセインズベリー社は会社創設以来の最大のスポンサー提供を計画しており、イギリス国内の 1000 以上の店舗を利用してパラリンピックの宣伝活動を行なう予定です。

パラリンピックとオリンピックの組織委員会を LOCOG として統合するパラリンピック競技大会の責任者であるクリス・ホルムス氏によると、今回初めての試みとして、オリンピック競技の全てのスポンサーがパラリンピックもサポートをすることになります。ホルムス氏は 14 歳で失明し、1992 年バルセロナ、1996 年アトランタ、そして 2000 年シドニー大会の水泳競技で 9 つの金メダルを獲得した競技者として、パラリンピック競技の参加者にとって何が問題かを良く知っています。「パラリンピックに参加する人々は競技で最高の力を発揮し、力を出し尽くすことに思いをめぐらせています。それは何年間かのトレーニングの後の最も重要な瞬間なのです。そして、テクニカルサービスと医療サービスはこのことに関して大きな責任を担っており、この責任は我々にあります。」と語っています。

オットーボック・ヘルスケア社の戦略とマーケティングの責任者である Dr. ヘルムート・プフル氏は、LOCOG とのパートナーシップが長期間にわたる信頼の上に築かれているという観点からこのように語っています、「オットーボック社は 30 年以上もの間、障害を持った人々のスポーツの促進に力を注いできました。1988 年にソウルで開催されたパラリンピック競技大会において、弊社は製品の開発以外にもできることがあることを実感しました。それは、競技会場で競技者に直接サポートすることができるということです。そしてこのコミットメントはオットーボック社の方針の一部となりました。」



QUALITY FOR LIFE

パラリンピックへの肯定的なマスコミ報道が急速に増大している中、国際連合が定義している障害をもった人々も同じ権利を有するという「一体性」を支持するような報道をすべきとの協定もあります。「パラリンピック委員会は社会の一部であり、このことは世界中どこでもあてはまります。」とクレバン卿は語っています。さらに、ホルムス氏がこう付け加えています、「パラリンピック競技と社会の深い関連は高齢化という傾向を考えると更に重要性を増すでしょう。」Dr. ヘルムート・プフル氏は「北京でのパラリンピック競技大会は中国における障害を持った人々の生活を積極的に変えることになりました。そして、それは大会期間中ばかりでなくその後も続いています。」と2008年に開催された北京での事例を引き合いにして語っています。

広報に関して重要なことはそれが競技者のパフォーマンスとイメージを通して確立されるということです。つい先日ニュージーランドのクライストチャーチで開催された国際パラリンピック委員会主催の世界陸上競技選手権大会で、100メートル走と走り幅跳びの世界チャンピオンとなったハインリッヒ・ポポフ氏は競技者のためにこのように語っています、「競技者は4年ごとにやってくるハイライトに備えて常にトレーニングを行い、また精神的な強さについても鍛錬をしています。競技が開始される前にその全てが完了されます。この最後の大事な瞬間に義肢が完璧に動かなければ、それまでの全てのトレーニングが無駄になってしまいます。競技者が会場に到着した時にカフェテリアやインターネットカフェについて聞く前に、先ず初めにオットーボックのサービスに関して尋ねるのはこうした理由なのです。」

詳細に関しては下記までご連絡をお願い致します。

オットーボック・ジャパン(株)赤松、樋詰、佐竹

TEL:03-3798-2113

E-Mail: [ottobock@ottobock.co.jp](mailto:ottobock@ottobock.co.jp)

[http://www.ottobock.co.jp/cps/rde/xchg/ob\\_jp\\_ja/hs.xsl/46095.html](http://www.ottobock.co.jp/cps/rde/xchg/ob_jp_ja/hs.xsl/46095.html)

2/2